



## 財務書類（財務 4 表） 用語解説



### 財務書類（財務 4 表）とは

---

国が進める新地方公会計制度（平成 28 年度決算から「統一的な基準」）に基づき、民間企業会計のように発生主義や複式簿記の考え方を導入して、「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の 4 つの表を作成しました。

### 貸借対照表

---

市が行政サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを総合的に対照表示した一覧表です。

資産とは、インフラ資産や施設等の有形固定資産、出資金等の投資的資産、及び現金や未収金等の流動資産など、行政サービスを提供するために保有するものや将来的にサービス提供のために用いることのできるものをいいます。

負債とは、地方債の未償還元金など、将来負担しなければならないものをいいます。資産を形成する財源としてみた場合、負債は「将来世代が負担する部分」と考えることができます。

純資産とは、資産と負債の差額であり、公共資産整備のために投入された国県補助金や税収等が計上されます。負債が「将来世代が負担する部分」であるのに対し、純資産は「現在までの世代が負担した部分」とみることができます。

### 行政コスト計算書

---

1 年間の行政活動のうち、福祉活動やごみの収集といった、資産形成に結びつかない行政サービスに係る経費とその行政サービスの対価として得られた財源を対比させたものです。

これにより、資産形成に結びつかない 1 年間の行政サービスを提供するにあたって、人件費や物件費といったどのような性質の経費が用いられたか、また、これらの行政サービス提供の見返りとしての使用料や手数料といった受益者負担がどの程度あったか、あるいは経常費用と経常収益がどの程度あったかなどをみることができます。

### 純資産変動計算書

---

貸借対照表の純資産の部に計上されている数値が、1 年間でどのように変動したかを表した計算書です。

純資産の部は「現在までの世代が負担した部分」ですので、1 年間で今までの世代の負担がどのように増減したのか分かることとなります。

### 資金収支計算書

---

歳計現金の出入りの情報を、「業務活動収支」、「投資活動収支」及び「財務活動収支」という 3 つの区分（活動）に分けて表示したものです。この計算書を見ることで、市のどのような活動に資金が必要とされ、それをどのように賄ったのかが分かるとともに、歳計現金をどのような性質の活動で獲得し、または使用しているのかを読み取ることができます。